

# 若年層女子の脚部のファッションスタイルと靴下の関係

(2014年9月16日受付; 2014年11月14日受理)

鈴木 直恵\*\* 香川 幸子\*

\*文化学園大学

## The Relationship Between Contemporary Young Women's Leg Fashion Style and Stockings/Socks

Naoe SUZUKI\*\* Sachiko KAGAWA\*

\**Bunka Gakuen University, Tokyo, Japan*

### Abstract

The purpose of this research is to examine how conscious younger women are of their exposed legs. As stockings and socks play an important role in women's fashion, their design depends on the degree to which women are conscious of their exposed legs.

The results of a questionnaire revealed that a casual style was preferred by more than half of the respondents, while their fashion style reflected their high interest in fashion. While more than 30 % of respondents indicated that they wore miniskirts on a daily basis, roughly 80% of them did not care if those of the opposite sex looked at their exposed legs. However, they were averse to undergarments that spilled out of clothes. Moreover, since stockings and socks are inexpensive, it was clarified that they can be easily used for coordination and image-building purposes, and therefore constitute important fashion items.

(Received September 16, 2014; Accepted November 14, 2014)

**Key words:** *younger woman, leg, stockings, socks, look, image, fashion style*

(Journal of the Japan Research Association for Textile End-Uses, Vol.56, pp.155-162, 2015)

### — 要 旨 —

本研究の目的は、若年層女子の脚部の露出意識に着目し、脚部に関する意識や靴下に求められるデザイン性および靴下がファッションにおいて重要な位置を占める理由を明らかにすることである。アンケート調査結果から、ファッションスタイルはカジュアル系が約半数を占め、おしゃれへの関心度も非常に高いことが分かった。3割以上が日常的にミニスカートを着用し、自分の脚部の露出に関しては8割近くが気にしておらず、異性が脚部を見てもなんら抵抗も持たないことが分かった。ただ、下着が見えることには抵抗があり、また、靴下は安価であるため、コーディネートやイメージ作りが簡便に行うことができ、ファッションにおいて重要なアイテムであると認識していることが明らかになった。

キーワード：若年層女子、脚部、靴下、視線、イメージ、ファッションスタイル

†Corresponding Author: E-mail: n-suzuki@bunka.ac.jp

## 1. 緒言

脚部への意識と靴下の関係は、歴史的に見てみると男性と女性では全く異なる意味合いを持つ。西欧の17世紀・18世紀絶対王制のなかで、男性の美しさの一つは脚部にあり、権力の象徴として力強い絶対美の記号として存在していた<sup>i</sup>。また靴下は男性の脚を包み込む表層のアイテムとして非常に重要な位置を占めており<sup>ii</sup>、華麗なる王の身体象徴として純白や金糸で縁取りされたシルクの靴下を着用して権力象徴を図っていた<sup>iii</sup>。また男性の脚部は男性性を強調したものでもあった。その脚は力強い脚線美でなくてはならず、ふくらはぎにアーティカル・カーブスと呼ばれるパッドをつけて、ふくらはぎを太く見せかけて筋肉を強調していたことも知られている<sup>iv</sup>。ルイ14世の脚にしがみつく女性が居たとの逸話もあり、男性の脚部は身体の中で特に重要な位置を占めていたことがわかる。

一方、女性の脚部は、男性の脚部が露出された17世紀・18世紀・19世紀とドレスの下に隠され、人目にさらされることは無かった。長きにわたり女性の脚部の露出はタブーとされ、脚は性的なシンボルとして慎ましやかにスカート下に隠すものとされていた。20世紀に入りポール・ポワレの革命やシャネルなどにより女性の脚部は少しずつ露出されるようになるが、1960年代のミニスカートの登場によって、やっと女性の脚部は完全に秘められたものではなくなった。むしろ女性達は脚部を露出することに一種の開放感を感じ、男性社会の規範から解放され、ファッションを自由に自分の意思で楽しむことが許されるようになる。

そういった歴史的背景を踏まえ、現在の日本の若年層女子のファッションを見ると、脚部の露出度が高い傾向にあり、その結果、靴下は彼らのファッション感覚のうえで大きな位置を占めていると考えられる。

本論は、若年層女子を対象として、脚の露出というファッションスタイルに含まれる脚へのファッション意識に着目し、脚部に関する意識や靴下に求められるデザイン性および靴下がファッションにおいて重要な位置を占める理由を質問紙調査法で明らかにする。

脚部の露出と靴下の関係についての研究は、歴史上、脚部がエロティシズムの対象として捉えられていたため<sup>v</sup>、ファッション史では扱いたくないテーマであったと考えられる。その為下着の文化史としての靴下の歴史的な研究がわずかに見られるだ

けである<sup>vi vii</sup>。

## 2. 研究方法

アンケート調査は、調査者立会いのもと集合調査により2012年1月に東京で実施し、回収率は100%であった。調査対象者は19歳～22歳の女子学生191名である。原則としてすべての質問項目に回答してもらった。

質問内容は、(1) ファッションに対する関心・態度 (2) 通学や休日のファッションスタイル (3) 脚部の露出に対する意識 (4) 靴下の好みやファッション意識 (5) 靴下に求めるデザイン性 (6) 靴下のイメージ調査の6項目である。(1) から (5) に関しては各項目について単純集計およびクロス集計を行い検討した。また (6) に関してはコレスポネンズ分析を行い、インナーシャの寄与率を求め、靴下のイメージの評価と靴下のデザインとの関連性について検討した。

## 3. 結果および考察

### 3-1 ファッションに対する関心・態度

図1は、若年層女子を読者層に持つファッション雑誌を用いて、ファッションタイプを回答肢として選定し、複数回答を求めた結果を示したものである。

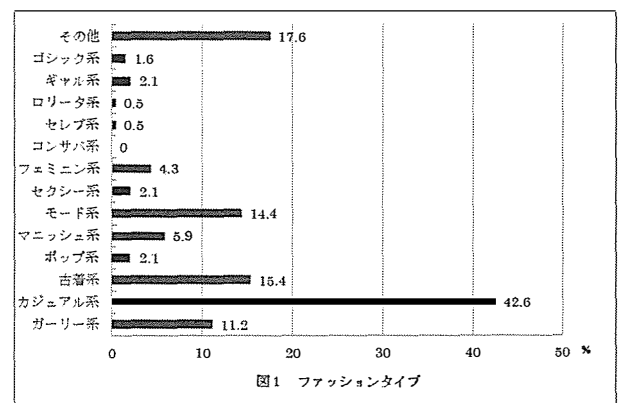
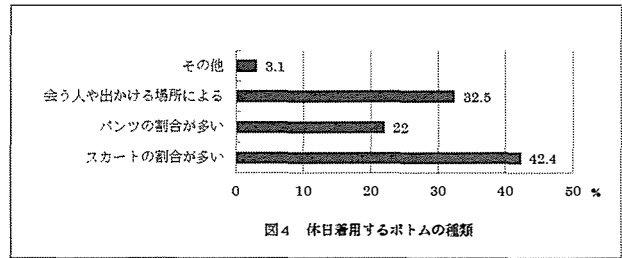
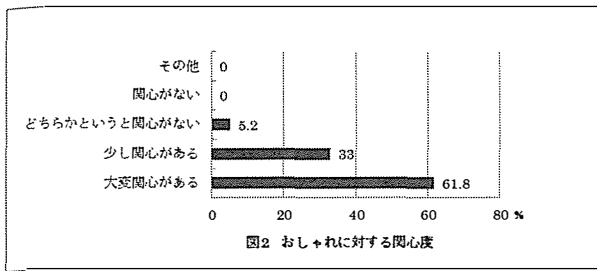


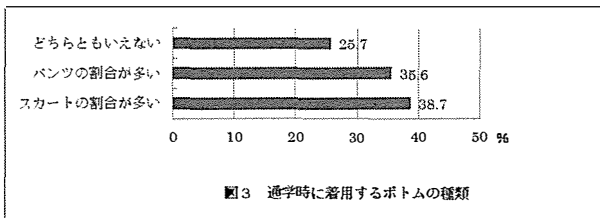
図1 ファッションタイプ

全体の約半数がカジュアル系で42.6%、続いて古着系が15.4%、モード系が14.4%であった。被調査者はファッション関係の大学で学んでいる学生であるが、昨今のファッションの傾向が色濃く見られる。また、おしゃれに関する関心は高く、図2に示すように61.8%が大変関心があるとし、少し関心があるが33.0%で、全体の8割以上がおしゃれに関心を持っていることが分かった。



### 3-2 通学や休日のファッションスタイル

図3は通学時にスカートを着用する割合が多いかパンツをはく割合が多いかを示したものである。スカートをはく割合が多い人は38.7%で、パンツをはく割合が多い人は35.6%、どちらとも言えない人が25.7%であった。着用理由を聞いたところ、スカートを着用するとした人の中で一番多かった意見は「楽だから」で、その他では、「スカートを沢山持っているから」、「かわいい」などの意見が得られた。またパンツを愛用する意見としては、「動きやすいから」や「楽だから」、「脚を隠したいから」などの理由が見られた。



### 3-3 脚部の露出に対する意識

よくはくスカート丈とパンツ丈を聞いたところ、図5に示すように、どちらもミニ丈が一番多く30.4%であった。その次に多いのがひざ丈で26.2%、次いでフルレングスが25.7%であった。またマイクロミニ丈は2.1%であった。フルレングスはいずれもパンツ着用者である。このように全体的に見るとスカートの愛用者の半数がミニスカートを好んで着用していることが明らかになった。また、ミニ丈を好んで着用する理由は、「コーディネートが取れるから」が一番多く、「かわいいと思うのがミニスカートだから」、「背が低いから」、「スタイルが良く見える」などである。

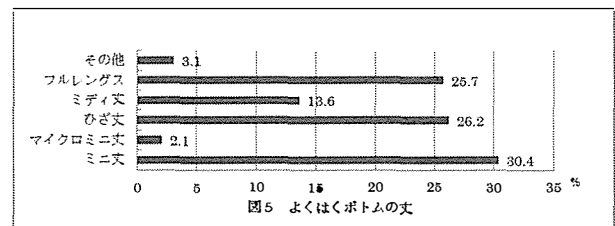
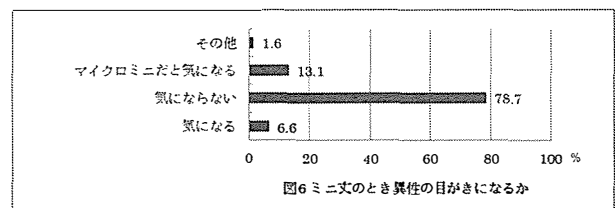


図4は休日のファッションスタイルを示したものである。スカートをはく割合が多い人は42.4%、パンツをはく割合が多い人が22.0%、会う人や出かける場所により変えている人が32.5%であった。また、その他として「その日の気分」「天候に合わせて」が3.1%見られた。学校に通学するときよりも休日にスカートをはく人の割合がわずかに増加する傾向が見られ、逆に休日にパンツを着用する人が減少している。また「会う人や出かける場所による」と答えた人の中で「恋人と会う時よりも、女友達に会うときはおしゃれをする」「渋谷などに行くときはおしゃれする」と具体的に答えており、会う人や出かける場所によってスカートとパンツの着用を使い分けている人が見られたのは注目すべき結果である。

また、ミニ丈のスカートやパンツを着用した時に男性の視線が気になるか聞いたところ、図6に示すように、78.7%の人が気にならないと回答し、マイクロミニだと気になる人が13.1%いた。

このことから、現在の若年層女子はスカート派、パンツ派と別れるのではなくどちらも着こなしていることが分かる。



このように、自分の脚部が露出しているにもかかわらず異性の目は殆ど気にせず、自然にミニスカートやショートパンツを取り入れている様子が伺える。

また、図7に示すように、ミニ丈やマイクロミニ丈のスカートやパンツをはいたときに「かわいい」と言われたことがある人が74.6%おり、ミニ

丈やマイクロミニ丈のファッションを積極的に取り入れている様子が伺える。また「かわいい」という言葉を異性より同性から言われる割合が多く88.6%もいた。異性から「かわいい」といわれたのは43.2%であった。このことから同性同士でミニ丈やマイクロミニ丈のファッションを容認し、それは同時に「かわいい」ファッションとして認識されている様子が伺える。

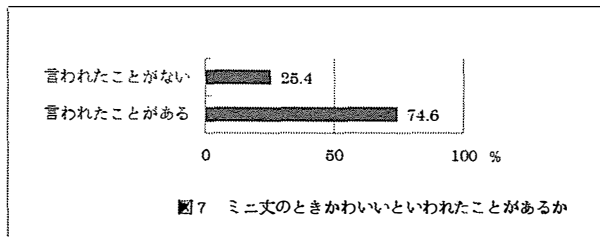


図7 ミニ丈のときかわいいといわれたことがあるか

図8はミニ丈を着用する理由を示したものである。「自分に似合っているから」が44.3%おり、「コーディネートがバランスが取れるから」が19.6%、「皆がはいているから」が6.6%であった。その他の理由とすると、「身長が低いから」、「何となく」、「楽だから」がともに6.5%であった。

このように若年層女子は、ミニスカートやショートパンツはかわいく自分にも似合い、そして同性がはくミニスカートやショートパンツに好感を持ち、脚を露出することに対する抵抗感は全く持っていないことが明らかになった。また成熟したファッションより「かわいい」と思われるファッションを楽しむ傾向にあることが明らかになった。

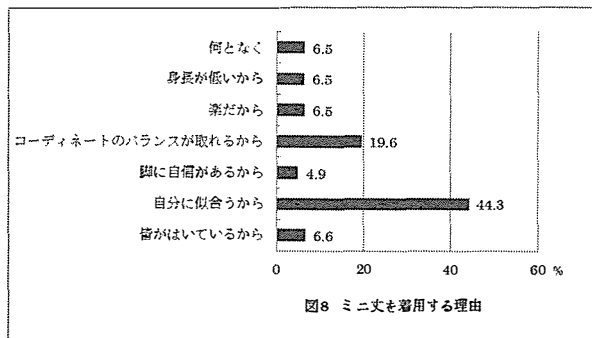


図8 ミニ丈を着用する理由

元来日本の独自の文化には、小さいものや幼げなものなどの未成熟なものを美として肯定する文化が存在している。それはすでに11世紀の「枕草子」に見られ、その後も「幽玄」「わび」「さび」「いき」など中間状態の未決定を楽しむ、つまり「幼さ」を残した「かわいい」に価値を見出す美学が存在している<sup>viii</sup>。対象との適度な距離を楽しむ感覚を持っているのが、日本の若い女性のファ

ッションであるとも言える。

一方、ミニスカートやショートパンツを着用しない理由を図9に示した。「脚に自信がないから」が58.1%に及んだ。また、「脚を露出することに抵抗があるから」が36.5%、「自分には似合わないから」が23.0%いることが分かった。またこの人たちは同性がミニスカートやショートパンツをはいているのを見て、「うらやましいと思っている人」が39.7%もおり、「何も思わない人」が26%、その他「かわいければよいと思う」などの意見が見られた。このように脚に自信があれば自分も積極的にミニスカートを着用したいと考えていることが明らかになった。

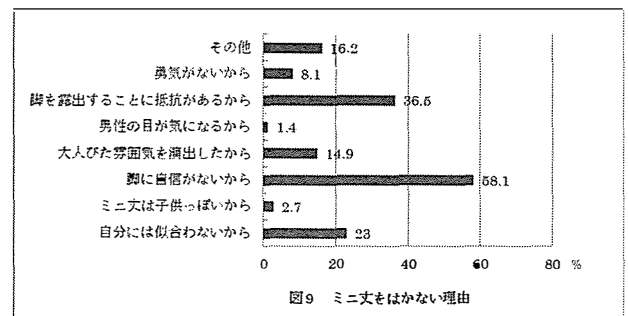


図9 ミニ丈をはかない理由

### 3-4 コーディネートにおける靴下の役割

図10は靴下のこだわりについて示したものである。「靴下へのこだわりがとてもある」人が19.9%、「少しある」人が56.0%で、全体の8割が何らかのこだわりを持っていることが分かる。また、コーディネートにとって靴下は欠かせないアイテムであると考えている人が全体の9割を占めている。その理由を聞いたところ、「トータルコーディネートとして重要」、「靴下の印象で雰囲気が変わる」、「服とのバランスを取るのに重要」、「コーディネートのポイントとして靴下は重要」、「他の人とは違うポイントとなるから」、「足元はおしゃれにとって重要」、「靴下が好きだから」、「足元もかわいい人を見るとおしゃれだなと思うから」、「ミニ丈のボトムをはくので靴下がよく見えるから」、「タイツや靴下が個性的だと凄く魅力的に見えるから」などの理由が見られた。理由の表現方法は様々ではあるが、靴下の重要性を被調査者は詳細に答えており、若年層女子にとって靴下はコーディネートにおいて非常に重要なアイテムであることが分かった。

靴下がコーディネートにとって欠かせないアイテムだと考えている理由を図11に示した。51.7%の人が「靴下を変えるだけでコーディネートの雰

雰囲気がかわる」からとし、「ポイントとして靴下のデザインにこだわる」が49.4%、「靴下でスカート丈やパンツ丈とのバランスが取れる」からが48.3%、「さし色として靴下を使う」が43.8%いた。

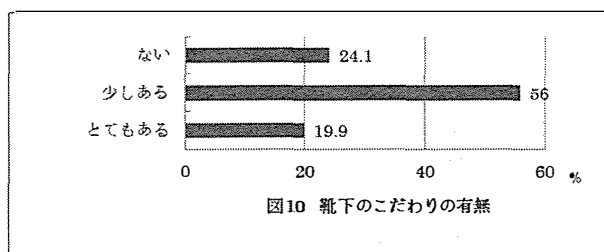


図10 靴下のこだわりの有無

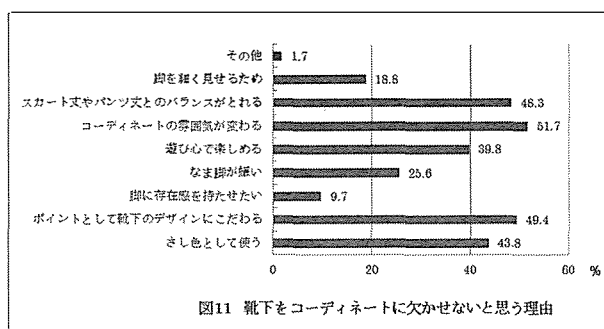


図11 靴下をコーディネートに欠かせないと思う理由

図12にコーディネートで作り出したいイメージを示した。「個性」が55.9%、「かわいらしさ」が41.0%で、全体の9割を占めた。美しさや清楚さや上品さ洗練度など大人のイメージよりもかわいらしさに裏付けられる個性を求めていることが分かる。また「かわいい」という褒め言葉を異性から言ってもらうのと、同性から言ってもらうのではどちらがうれしいかを聞いたところ、「どちらもうれしい」が66.5%で、「同性から言ってもらうのがうれしい」が24.6%、「異性から言ってもらうのがうれしい」が5.8%となり、異性の目を意識しているより、女性同士の目を大切にしており、「かわいい」という言葉で褒めてもらうことに重要度をおいていることが明らかになった。ただ靴下と言っても肌色ストッキングは若い女性には人気がなく、あまりはかない人が73.2%いた。

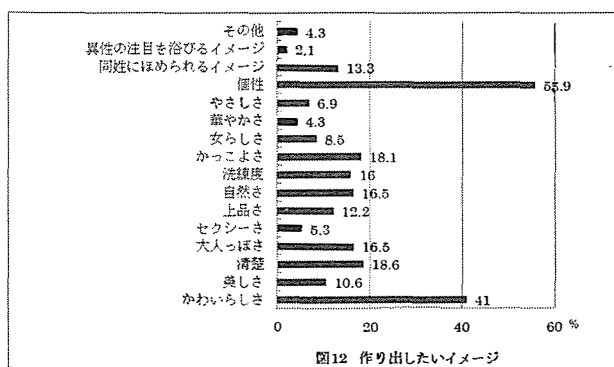


図12 作り出したいイメージ

これも、OLなどをイメージさせる肌色ストッキングは若さを表すのではなく大人びた要素を持っているからだと思われる。また無地の靴下と柄物の靴下の保有数を聞いたところ、44.9%の人が柄物を保有していることが分かった。

所持している靴下の柄を聞いたところ、ボーダー・ストライプが27.5%で一番多く、続いて幾何学模様が19.0%、花柄が18.5%、水玉が12.7%、チェックが10.1%であった。また、装飾はプリント柄が39.7%、レースが32.3%、特に無しが24.9%、刺繍が15.9%であった。

このように、靴下は着装イメージを変えるのに安価で効果的なアイテムであると考えていることが明らかになった。

### 3-5 脚に対する意識

「かわいい」ファッションが主流になり、多くの若い女性が脚を露出している光景が日常的に見られる。図13は脚を露出しているときに他人の目を意識するかどうかを示したものである。

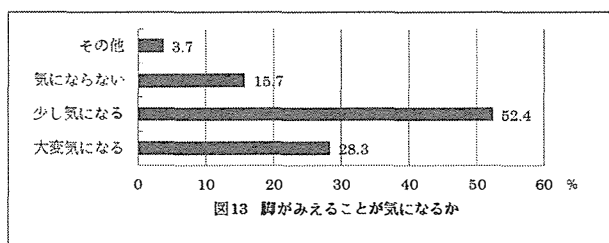


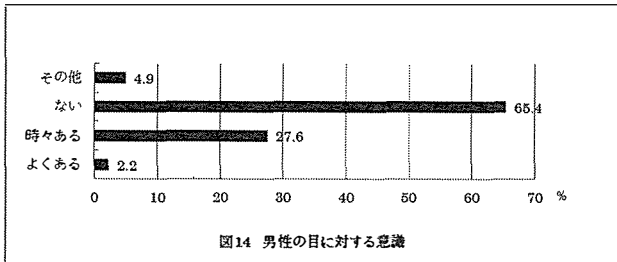
図13 脚がみえることが気になるか

ミニスカートを着用して、駅の階段を上がるとき下着が見えることや脚が見えることに対する抵抗感を少し感じている人が52.4%、大変感じている人が28.3%いた。それに対して気にならない人が15.7%であった。抵抗感を感じている人にどのように気なるのかを聞いてみると、脚部が見えることには抵抗感が無いが、下着が見えることには抵抗感があると答えている人がほとんどであった。

ミニスカートはかわいらしさを演出でき、そしてみんなにかわいいと言って欲しいと思いを積極的に採用し、脚部を露出していることにはなんら抵抗がないが、一方で下着が見えることを気にしている様子が伺われる。

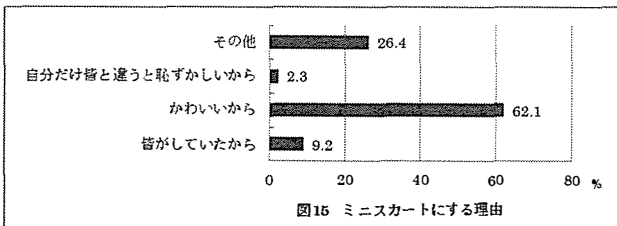
図14はミニスカートやショートパンツの着用時に、男性の視線をどのように感じているかを示したものである。よく男性の視線を感じる人は、わずかに2.2%で、時々見られているのを感じている人が27.6%であった。一方で見られていると意識していない人が65.4%であった。また、「よ

くある」と「時々ある」と答えた人に「男性の視線を感じたときどのように思ったか」を質問したところ、「見られても何も感じない人」が29.6%で、「見たければみれば」という意識でいる人が25.9%であった。このように若年層女子のほとんどは、自分の脚部の露出に対する男性の視線を意識していないことが明らかになった。



### 3-6 高校の制服と校則違反について

高校の制服を学校以外で着用するときミニ丈にしていた人は全体のうち6割を占めている。スカート丈は平均膝上12.58cmであった。また校則違反をしてまで、ミニスカートにする理由を聞いたところ、図15に示すように、「かわいいから」が62.1%、「皆がしていたから」が9.2%で、その他の意見では、「ブレザーとのバランスが悪いから」、「長いとダサいから」、「長すぎると脚が短くみえるから」などの意見がみられた。



### 3-7 靴下に求められるデザイン性

図16は、よくはく靴下の種類とよくはくスカート丈との相関性を示したものである。マイクロミニ丈のスカート着用者の特徴は、タイツを83.8%の人が着用し、短い丈のソックスやハイソックスなどの着用はほとんど見られなかった。マイクロミニ丈だからこそ、タイツを着用することによって、タイツがポイントとなり、より自分の脚部を強調する手段と成り得る。その一方でストッキングの着用は9.6%と好んでいない。それは、マイクロミニ丈のスカートを履いてより脚部を強調したいとは思っているが、ストッキングは生足のように見える為、セクシーにみられるのを嫌うから

だと推察される。ひざ・ミディ丈のスカート着用者はタイツの着用は少ない傾向にあり、ソックスの着用者が57.8%であった。

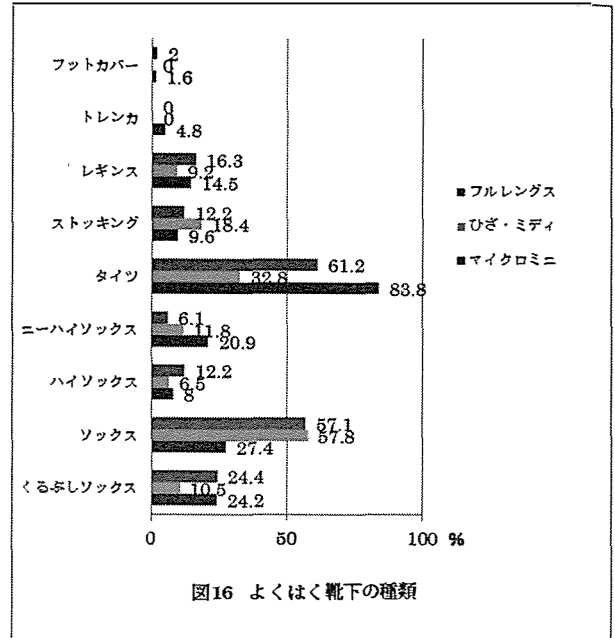
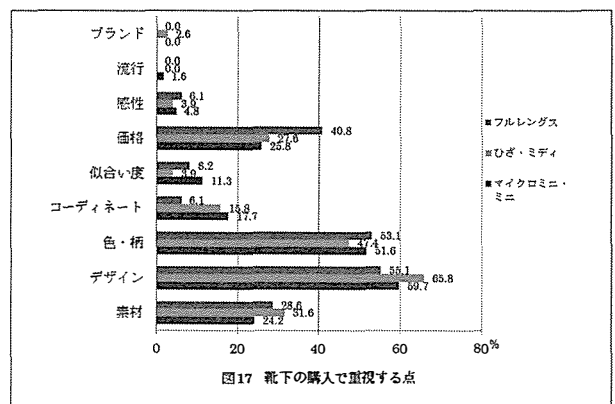


図17に靴下の購入で重要視することを示した。一番重要としていることはデザインでマイクロミニ丈のスカート着用者が59.7%、膝丈のスカート着用者が65.8%、フルレングス丈のスカート着用者が55.1%であった。次に色・柄で、流行やブランドは全く気にしてない様子が伺える。



### 3-8 靴下のイメージ調査

16タイプの靴下のイメージ調査を行った。靴下の装着写真とその靴下のアップ写真を提示して次の評価項目を用いて3段階評価(とても思う やや思う 思わない)を行った。評価項目は、1 かわいい 2 個性的 3 繊細 4 大人っぽい 5 セクシー 6 品がある 7 好き 8 脚が目立つ 9 脚の露出に抵抗がある 10 コーディネートが

良い 11 靴下が効果的である 12 はきたいである。

16 タイプの靴下が若年層女子たちにどのようなイメージで捉えられているかを分析するために、1~12 の各評価項目の「とてもそう思う」の反応値を対象にコレスポンデンス分析を行った。

コレスポンデンス分析の結果、評価項目と 16 タイプの靴下の関係性を示している特異値は、1次元 0.46, 2次元 0.267 となっている。特異値の二乗値が固有値であり、これら固有値の累積寄与率は2次元までで 85.6% を占めており、2次元で約解釈することに問題はない。

図 16 に布置図を示す。分析の結果、3つのイメージグループに分析された。第一象限には「品がある」、「繊細」のイメージがプロットされ、第二象限には「コーディネートが良い」、「可愛い」、「好き」、「はきたい」がプロットされた。第三象限には「靴下が効果的」、「脚が目立つ」、「個性的」がプロットされた。第四象限には「大人っぽい」、「セクシー」がプロットされた。第二象限、第三象限は類似のグループに分析された。

第一象限のグループはいずれも白の靴下で、第四象限には黒の靴下がグルーピングされた。また第二象限、第三象限にはボーダー、水玉、花柄など、所持している靴下の柄のアンケート結果と一致する柄の靴下がグルーピングされた。これらをまとめると1次元プラス方向に単色の靴下、1次元マイナス方向に多色の靴下が布置されており、色の多寡を示していると考えられる。2次元ではプラス方向に淡い色、マイナス方向に濃い色が布置される傾向があり、色の濃淡を示していると考えられる。このように、日頃カジュアルファッションを身に着ける傾向にある若年層女子にとって、第二象限、第三象限に布置された様々な柄や色の靴下はコーディネートのポイントとして効果的なアイテムであると捉えていることが分かった。また、単価の安い靴下は、靴下を変えるだけでコーディネートのイメージを変えることができ、若年層女子がデザインや柄にこだわる理由も第二象限、第三象限に布置された靴下のデザインから、納得できる結果であると考えられる。また、第一象限の品のある白い靴下、第四象限の大人っぽい黒の

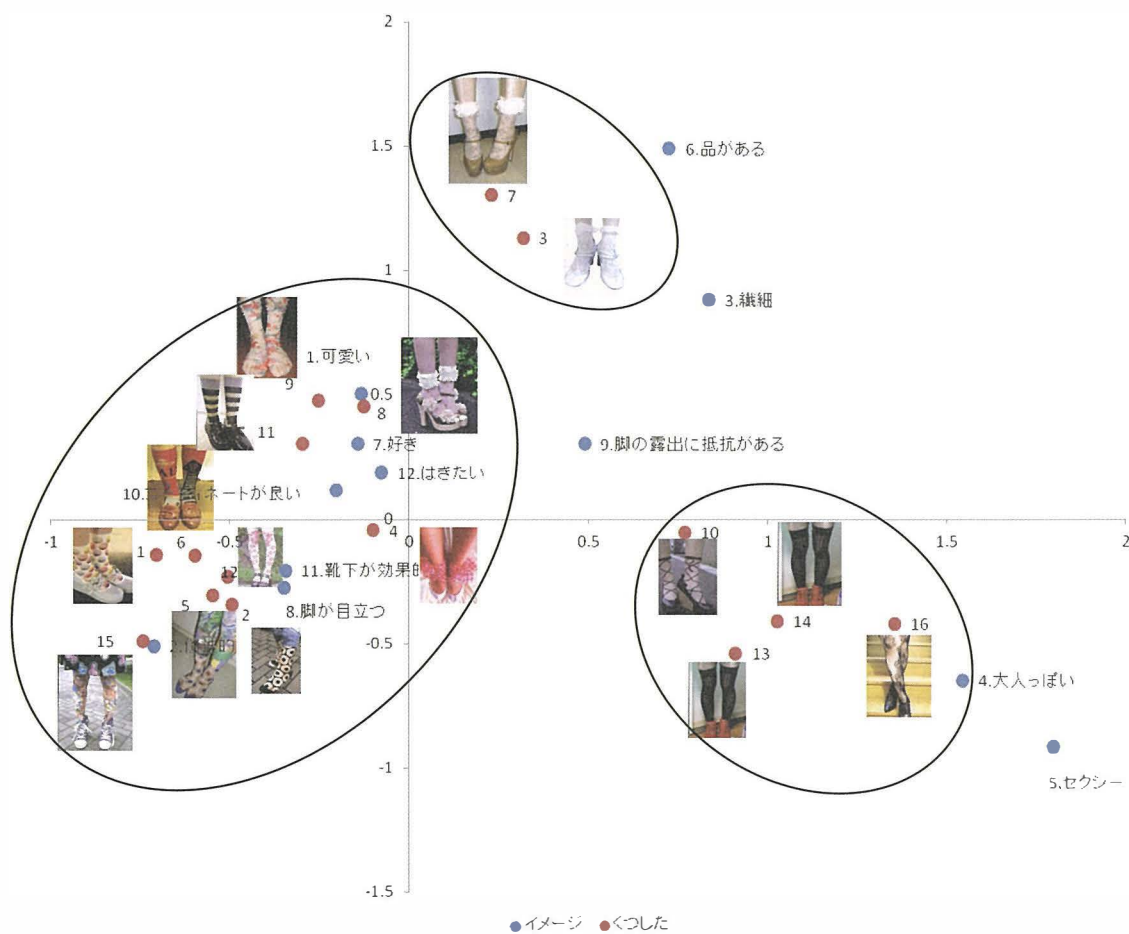


図 18 靴下のデザイン評価に関する項目の布置図

靴下は、日本の若年層女子にとって、カジュアルファッションに合わせる事があまりないことが分かった。

#### 4. 結語

本研究は、若年層女子の脚部の露出と靴下の関係について明らかにしたものである。おしゃれに対する関心度は非常に高いが、日常的に着用しているのはカジュアルなファッションであることが分かった。コーディネートを通じて個性的なイメージやかわいいイメージを作り出したいと思っている為、同じようなアイテムのカジュアルなファッションを他の人と差別化する方法として、お金のかからない靴下を効果的に使う工夫をし、ファッションスタイルにおけるイメージづくりを積極的に行っていることが分かった。したがって、若年層女子にとって靴下の存在は重要なアイテムと認識していることが明らかになった。また脚部の露出に関しては、異性の目もほとんど気にするこ

となく、ミニスカートを着用していることが分かった。

本論は服飾文化共同研究拠点採択公募研究（平成 22 年～24 年）の助成を受けて行ったものである。

- 
- <sup>i</sup> 多木浩一 欲望の修辞学 青土社 1987 166
  - <sup>ii</sup> 青木英夫 下着の文化史 雄山閣出版 2001 49
  - <sup>iii</sup> à fleur de peau le bas Troyes Musée d'Art moderne 2007 20
  - <sup>iv</sup> 山口登世子 モードの帝国 筑摩書房 1992 65
  - <sup>v</sup> セシル・サンローラン 女の下着の歴史 1981 60
  - <sup>vi</sup> à fleur de peau le bas Troyes Musée d'Art moderne 2007 20
  - <sup>vii</sup> 坂田信正 靴下の歴史 内外編物 1971
  - <sup>viii</sup> 四方田犬彦 「かわいい」論 ちくま新書 2010 92